

第 2 2 号

出典：インターネット
アルコールとメトロニダゾールの関係

メトロニダゾール内服時はアルコールを避ける

薬を飲むときのアルコールの関係

夜は晩酌したいとかありますね。古くからアルコールは「百薬の長」として愛飲されてきました。しかし、薬と一緒に服用すると問題があります。一辺倒にいわれてもねえ。朝の薬と夜の晩酌が影響するの??でもどれくらい一緒だと問題なのか。考えてみました。

目次
アルコールとの飲みあわせの基本 意外なところにもアルコールが! 組合せの基本
実際の組合せの一例 絶対に飲んじゃダメな組合せ(併用禁忌) どうして?絶対一緒じゃダメな組合せの詳細と理由

アルコールとの飲みあわせの基本

アルコール自体の中枢神経抑制作用や、肝臓で薬が代謝される時にいろいろな作用をもたらすので、アルコールとの組合せの基本に薬の作用が増強する場合と減弱する場合、副作用(毒性)がでてしまう場合などがあります。

また、普段大量にアルコールを飲んでいると、薬の作用が正しく現れなかったり、副作用が強まる場合もあります。

飲みあわせでも時間をずらしたり、同時服用を避ければ良い組合せ、絶対ダメな組合せなどたくさんあります。医師・薬剤師に相談しましょう。

よく理解してアルコールともお薬とも上手に付き合いましょう。

意外なところにもアルコールが!

アルコールと言うと、ビール、ウイスキー、ワイン、日本酒などが考えられますが、実際には、市販されているドリンク剤や清涼飲料水などにも入っているものもあるので、気をつけましょう(市販ドリンクの成分表、市販ドリンク剤中のアルコール量参照)。また、化粧品などローションにもアルコールが入っているのです。少量であればさほど問題にはなりません、全身・大量に使用するものは注意が必要。

組合せの基本

1.心臓の薬を服用している時

心臓の働きを活発にする強心薬は、アルコールによって代謝が抑えられ、薬の血中濃度が高くなり中毒症状を呈する事があります。市販の「救心」にはアルコールが入っているので注意が必要です。

2. 血圧の薬を服用している時

成分のうえでは併用は問題ないですが、アルコールには血管を広げる働きがある為、降圧作用が強くなって、立ちくらみ、めまい等を起こす事があります。

3. 胃の薬を服用している時

アルコールを多飲すると、シメチジンという薬を服用中の人はアルコール依存症になりやすいといわれます。また、胃酸の分泌を促し、潰瘍の原因にもなります。血管の拡張作用もあるので、潰瘍のある方は出血する事もあり、控える事が必要です。

4. 肝臓の機能が低下している方

肝臓への負担を増します。薬の代謝もアルコールの代謝も肝臓です。肝硬変・肝ガンの原因にもなりかねません。

5. 咳止めの薬を服用している時

咳の神経を抑制するので、眠気が強くてたりします。注意力が必要な仕事、危険な作業の方は控えて下さい。

6. 抗アレルギー剤を服用している時

薬、アルコール相互に作用が強くなります。眠気が強くてたり、悪酔いしたりします。併用はしない方がよいでしょう。

7. 糖尿病の薬を服用している時

糖尿用の飲み薬は、アルコールの酔いが強くなります。注意して下さい。又、アルコールによりカロリーオーバーになる事も考えられます。

8. 痛風の薬を服用している時

アルコールと一緒に飲むと尿酸の値を高めると考えられます。とくにビールがよくないと言われています。

9. 安定剤・睡眠剤を服用している時

どの薬も作用が強くなります。原則的に禁酒が必要です。寝る前に晩酌して安定剤・睡眠剤を飲むというのはよくありません。順番が逆でもだめです。中枢(脳)に働きかける薬は作用が強く現れ危険です(逆に普段から飲酒量が多い場合、薬の効き目が悪くなる場合もあります)。足元がふらついて転倒したり階段から落ちることなど危険が一杯です。

実際の組合せの一例

組合せはいくつもあるのですが、一例を紹介

<アルコールといっしょに飲むと効果が強くする薬>

トルブタミド(血糖降下剤) 長期にお酒を飲み続けている方は、逆に効果が弱くなります。
 ワーファリン(抗凝血剤)
 ウインタミン、セルシン、セレネース、など(精神安定剤)
 ハルシオンなど(睡眠導入薬)
 トフラニール(抗うつ剤)など
 アスピリン、アセトアミノフェン(解熱鎮痛剤) アスピリンは血栓予防にも使用します。
 マレイン酸クロルフェニラミン(抗ヒスタミン剤)など

<アルコールによって効果が弱くなる薬>

アレビアチン(抗けいれん薬) 慢性アルコール摂取にて薬の代謝が早くなります。
 アセトヘキサミド(血糖降下剤) 慢性アルコール摂取にて薬の代謝が早くなります。

<アルコールといっしょに飲むと副作用(毒性)が強くする薬>

アスピリン(解熱鎮痛剤) 胃穿孔、肝臓、腎臓障害
 アセトアミノフェン(解熱鎮痛剤) 肝臓障害
 イソニアジド(抗結核薬) 肝臓障害など
 ハルシオン(睡眠導入薬) もうろう状態・健忘など

<アルコールの作用が強くなる薬>

マレイン酸クロルフェニラミン(抗ヒスタミン剤)
 塩酸ラニチジン、シメチジン(H2ブロッカー)
 イソニアジド(抗結核薬)など

絶対に飲んじゃだめな組合せ(併用禁忌)

薬品名(例)	一般名(成分)	分類
ノックピン(東京田辺)	ジスルフィラム	アルデヒド脱水素酵素阻害・抗酒剤

フラジール内服錠(塩野義)	メロニダゾール	抗トリコモナス剤
ナツラン(ロシュ)	塩酸プロカルバジ	抗リンパ腫剤
シアナマイド液(同仁)	シアナミド	酒量抑制剤
ミフロール(三井)	カルモフル	代謝拮抗剤
ヤマフル(山之内)	カルモフル	代謝拮抗剤

どうして？絶対一緒じゃだめな組合せの詳細と理由

1.ノックピン(東京田辺)

ジスルフィラムVSアルコールを含む医薬品(エリキシル剤、薬用酒等)・食品(奈良漬等)・化粧品(アフターシェーブローション等)

→ジスルフィラム-アルコール反応を起こすおそれがある

2.フラジール内服錠(塩野義)

メロニダゾールVSアルコール

→腹部の仙痛、嘔吐、潮紅が現れることがあるので投与期間中は飲酒を避ける

3.ナツラン(ロシュ)

塩酸プロカルバジンVSアルコール

→アルコールに対する耐性を低下させる場合がある

4.シアナマイド液(同仁)

シアナミドVS アルコールを含む医薬品(エリキシル剤、薬用酒等)

→シアナミド-アルコール反応を起こすことがある

5.ミフロール(三井)、ヤマフル(山之内)

カルモフルVS アルコール

→ソリブジン . . . フルオロウラシル系薬剤の代謝が阻害され血中濃度が上昇し重篤な血液障害が発現したという報告がある

→アルコール性飲料 . . . アルコールの代謝を阻害し、アセトアルデヒドの血中濃度を上昇させ、紅潮、悪心、頻脈、多汗、頭痛等の症状が現れることがある。また、脳貧血様症状と意識不明を起こした例がある